

大川隆法「公開霊言」シリーズ

この世を去った世界に存在するさまざまな霊人を招き、その思いを大川隆法総裁の肉声を通じて明らかにするもの。聴衆のいる公開の場において、複数のインタヴューアによる質問形式で収録される。また、同様に現在生きている人の守護霊を招き、本人の潜在意識を訊きだすこともできる。

わずか3年でシリーズ150冊突破!

ここまで来た「霊界の実証」!

反響続々! 次はあなたが確かめてください。

霊言の神秘に迫る

Q & A

大川隆法 (おおかわ りゅうほう)



幸福の科学グループ創始者兼総裁。1956(昭和31)年7月7日、徳島県に生まれる。81年、大信し、人類救済の大いなる使命を持つ「エルカンターレ」であることを見出す。86年、「幸福の科学」を設立。現在、全国および海外に数多くの精舎を建立し、精力的に活動を展開。著書は、「太陽の法」(幸福の科学出版)など1000冊を超える。「幸福実現党」(幸福の科学学園中学校 高等学校の創立者でもある。

(資料提供: 月刊「ザ・リパティ」2011年11月号参考)

A.1 世界宗教は、すべて「霊言」から始まった

歴史をひもとくと、実は古代から現代に到るまで、宗教家や霊能者によって、「霊言」は行われてきた。世界宗教と言われる仏教、キリスト教、イスラム教も、実は「霊言」から始まっている。

「天の父」の言葉を伝えた イエス

イエス・キリストは、『聖書』の



記述でこのように語っている。「あなたがたが聞いている言葉は、私の

ものではなく、私を遣わした父の言葉である」(ヨハネの福音書14・24)。このように、イエスは「天の父」からの言葉を話していたのだ。

「アッラー」のことは霊言し『コーラン』を著したムハンマド

イスラム教の開祖ムハンマドの場合はどうか。

40歳の時、ヒーラ山の洞窟の中で修行していると、天使ガブリエルが現れ、ムハンマドにアッラー(神)の言葉を伝えた。その啓示はムハンマドが地上を去るまで続き、それらの言葉が『コーラン』となったのだ。

神々が教えを乞いに来た

仏陀・釈尊

では仏教はどうか。日本にあるさまざまな仏教宗派は、その宗祖たちが釈尊の言葉を伝えた經典のもとに、「この教えこそが釈尊の真意である」として立宗したもので、これを「經典宗教」と言う。

しかし、すべては仏陀・釈尊に始まる。釈尊が30歳で悟りを開いた時、「梵天勧請」という霊現象があったと伝説は伝えている。これは、「梵天」というインドの神が、悟りを開いた釈尊に、「どうか衆生を救うために、その悟り高き教えを説いて下さい」と頼みに来た話だ。さらに、「神々との対話」「悪霊との対話」も伝説に遺っている。



キリスト教に霊界思想を入れた 霊能者たち

キリスト教の前身でもあるユダヤ教の開祖モーセは、有名な「十戒」を神ヤハウエより授けられ、それを人々への指針とした。その後も旧約の預言者と呼ばれるエリヤ、アモス、エレミヤ、イザヤ、第二イ



ザヤなど、神の言葉を預かり伝える霊能者たちが次々と現れた。

時代が下っても、霊能者は続く。キリスト教においては、グノーシス派と呼ばれる神秘主義の一派が現れ、神の言葉を伝えたが、異端審問の迫害に遭い全滅した。

だが、その後もキリスト教に欠けている転生輪廻や霊界思想を補うために、多くの霊能者が現れた。

霊界の様子を伝えたスウェーデンボルグ、「眠れる予言者」エドガー・ケイシー、神智学協会を創ったブラヴァツキー夫人など。さらに1857年以降、アメリカやイギリスを中心として興ったスピリチュアリズムの流れがある。

日本神道も霊言の宝庫

日本神道もまた「霊言」が中心だった。日本の中心神である天御中主神、天照大神は、常に神と交霊し、神の御心を政治に反映しようとする「祭政一致」を実践した。神々の姿を著した『古事記』も、稗田阿礼が誦習（声に出して読む）したものを太安万侶が筆記したと言われている。つまり稗田阿礼は神々のことばを「霊言」によって伝える役目だったと言える。

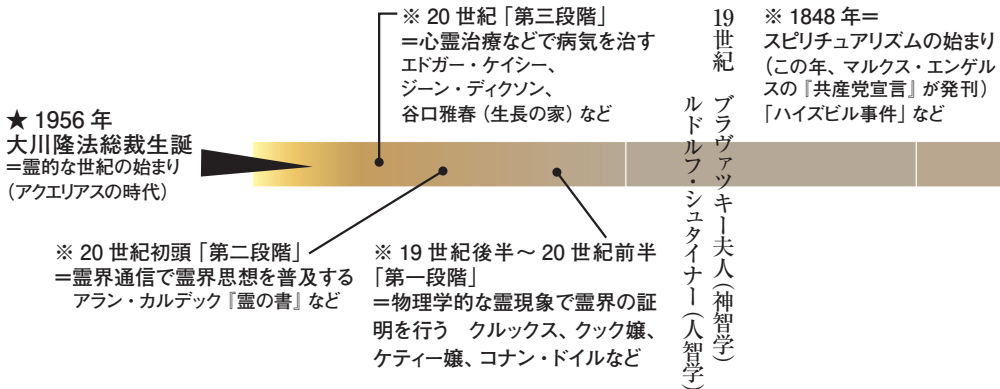
時代が下り、幕末以降、神道系の新宗教が次々と現れたが、みな「霊言」によって神々の言葉を伝えた。黒住教の黒住宗忠（1780～1850年）、天理教の中山みき（1798～1887年）、金光教の

金光大神（1814～1883年）らは、みな「神」からの啓示を受け、新たに宗教を興した。大本教の出口なおは、国常立之神からの神示を「お筆先」（自動書記）で伝え、二代目の出口王仁三郎（1871～1948年）は口述つまり霊言によって『霊界物語』を著した。

このように古今東西、常に神々の言葉を伝える霊能者は存在している。ただし、そのレベルはさまざま。イタコやユタなどの巷の霊能者のレベルもあれば、一宗一派を興せるくらいの教えを説ける霊能者もいる。さらに世界宗教を興す巨大霊能者、救世主レベルの人もいる。歴史を見れば、「霊言」がいかに人々の生きる指針となってきたかが分かるだろう。

霊能者が宗教をつくってきた

B.C. 13世紀	モーセ
B.C. 9～6世紀	旧約の預言者たち (エリヤ、アモス、エレミヤ、イザヤなど)
B.C. 6世紀	釈尊
B.C. 5世紀	ソクラテス
A.D. 1世紀	イエス・キリスト
2～3世紀	グノーシス派
7世紀	ムハンマド
10～11世紀	カタリ派
16世紀	ノストラダムス
17～18世紀	スウェーデンボルグ
18～19世紀	黒住宗忠(黒住教) 中山みき(天理教) 金光大神(金光教) 出口なお(大本教)



A.2 哲学もまた、「霊」より流れでる

ソクラテス に始まり プラトンは 継承した霊的世界

霊という概念は、宗教に限られるわけではない。哲学の起源はギリシャであるとされているが、その哲学の祖と言われるソクラテスも、霊的世界に立脚して生きていた。

ソクラテスが「無知の知」を悟ったのも、デルフォイの神託がきっかけだった。すなわち、神の言葉がソクラテスの哲学の源流にあり、霊的世界を前提とした人間の生き方や正しさとは何かを説いたのだ。その彼自身、非常に霊体質で、守護霊「ダイモン」と常に会話をしていたことは、その著作にも数多く出てくる。その最後も、弟子たちが彼を逃がそうとしたが、ダ

イモンはそうせよと言っていないとして、ソクラテスは従容として毒杯を仰ぎ、死んでいったのだ。ソクラテスの弟子プラトンもあの世の実在界を知っていた。その著『パイドン』で、彼はソクラテスを登場させ、実在界の様子、転生輪廻の仕組みを明確に説明させている。また、『国家』のなかにも、師ソクラテスが語った内容として、「白鳥に生まれ変わることを選んだ

魂の話」が出てくる。

プラトンは、「アイデアという真理の世界があり、この世はそのアイデアの世界の投影なのだ」と考えた。アイデアとは死後の実在界のことだ。

このようにプラトンは、はっきりと魂の存在を知っていて、その存在を肯定していた。彼の一連の著作には何度も何度も魂の話が出てくる。しかし、近現代の哲学者の多くがそれを理解できず、霊的部分がすっぽりと遠ざけられていったのだ。

デカルトと カント そして誤解の始まり

そうした流れの中で近世から近代にかけて、デカルトやカントが登場する。

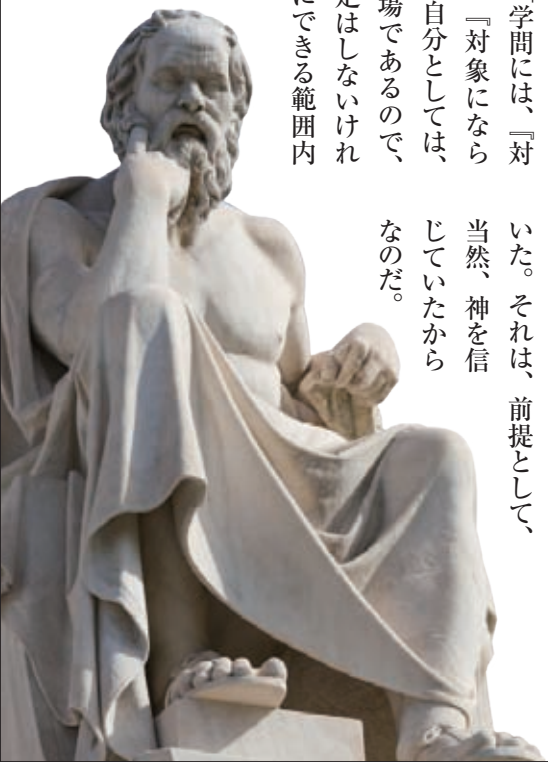
デカルトも、実は霊能者であり、「霊夢」を見たことで有名だ。夢のなかでお告げを得て、さまざまな発見をしたことが、『方法序説』等に出てくる。

また、カントも、同時代に生きたスウェーデンボルグを通して心靈問題には非常に強い関心を持っていた。スウェーデンボルグは、霊視能力や予知能力を持ち、天界に行った体験などを、その著作に残している。

ただ、カントは、「学問には、『対象になるもの』と、『対象にならないもの』がある。自分としては、神を信じている立場であるので、そういうものを否定はしないけれども、自分が対象にできる範囲内のことに限って研究をする」という姿勢をとった。

これが後世の哲学に大きな誤解を与えることになった。「カントが研究の対象としなかった」という理由によって、カント以降のあの世を信じない哲学者が、「哲学は非合理的なものを否定するのだ」と言って、霊的なものを否定するようになったのだ。

しかし、実際にその著作を読めば、デカルトは霊能者だったし、カントも、心靈能力などを信じていた。それは、前提として、当然、神を信じていたからなのだ。



A.3

心理学も「霊的世界の探究」だった！



霊言をはじめとして、霊界からの働きかけを前提とした様々な現象について、学問の世界においても、こうした不可思議な現象の存在を真剣に受け止め、まじめな分析の対象にしようとする人たちはたくさんいる。

心霊現象を まじめに研究した ユング

例えば、分析心理学の確立者で

あるカール・G・ユング。彼は多くの独創的な理論を編み出したが、それらは常に心霊現象の存在を意識し、それを説明できるように構成されている。

ユングの最大の特徴は、フロイト同様に「無意識」の存在を認めただけでなく、**個人的な無意識のさらに奥底に、他の多くの人たちともつながっている「普遍的無意識」の存在を認めた点だ。**表面意識のあずかり知らない広大な世界から様々な「存在」の働きかけが

あるというのだ。

ただし彼の場合、霊界が本当に存在するかについては慎重に態度を保留したまま心理学的に説明するため、話が複雑になってはいる。

例えば、昔は「悪霊憑き」などと言われ、霊現象と考えられていた二重人格を説明して、無意識下に溜まっている抑圧された感情などが暴走して、もう一つの人格として表面化する現象だとした。

良い方の現象もある。例えば、普遍的無意識まで含めた本来の自

分全体（セルフ）が「老賢者」などのイメージとして意識に表れて、その人の人生を善導するという事例を紹介している。

「老賢者」以外にも、ユングは普遍的無意識における心の働き方のパターンを集め、それらを「元型」と呼んでいる。

また、正確な予知夢など、因果律では理解できない現象を「シンクロニシティ（意味ある偶然の一致）」として研究しているが、これも無意識を含んだセルフが、その人にとって意味のある出来事を起こしているかと理解していたようだ。

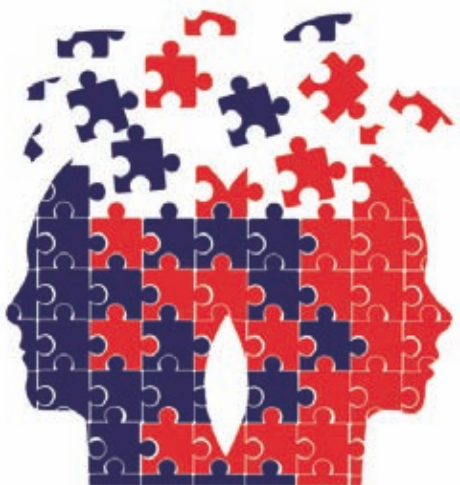
「無意識」とは 霊の世界

しかし、これらを幸福の科学の仏法真理に照らしてみれば、もっと簡単に説明できる。

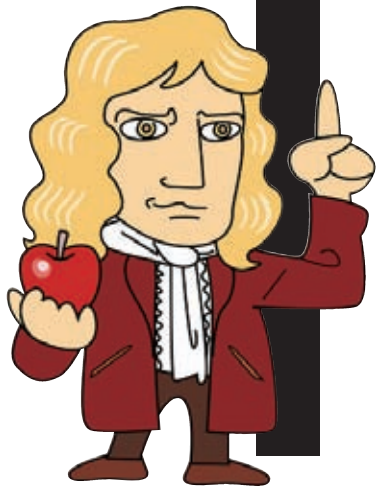
二重人格については、典型的な悪霊の憑依現象である。もう一つの人格が語り始めたとなれば、それは「必ずばり」霊言だ。「老賢者」は、神や仏、天使など、高級霊界の指導霊が現れたものと言える。それ以外の「元型」は、霊界から働きかける存在が多様多様であることを示している。

シンクロニシティも、善霊か悪霊かはその都度違うが、基本的に霊界からの接触であろう。

ユングも霊界と霊の存在を正面から語っていれば、このような複雑な理論構成をしなくても済んだのではないか。とは言え、不可思議な現象を無視せず、それを学問的に分析しようとしたのは、ユングの大きな功績だ。深層心理学の理論と数多い心霊現象の報告を付き合せて考察すれば、きつと実り多い知見が得られることだろう。



A.4 科学だって例外ではない



最大のオカルティスト アイザック・ニュートン

「近代科学の祖」であるニュートンは、実は「最大のオカルティスト」とも言われている。

ニュートンは、宇宙の解明に努め、実際に、重力等の秘密を解き明かした天才科学者だ。その一方で、ある秘密結社の総長を務めるなど、神秘主義者の一面を持っていた。



57歳頃から、霊的体験が始まり、神秘主義的な著作物を多量に出版した。しかし、当時のキリスト教会からは異端視された。それでも、彼は神秘主義者として活動を続け、その後、国会議員にまでなった。

ニュートンは、造幣局の長官を務めたり、科学者をしたりと、この世的な仕事もきっちりやる一方で、この世とあの世を貫いている真理に対して、目を見開いた科学者であり、神学者だったのだ。

最大の神秘思想家 スウエーデンボルグ も天才科学者だった

カントが関心を示したというス

1%の霊的啓示に賭けた エジソン

エジソンと言えば、発明家として有名だが、科学を実用化した人間と言える。

「天才とは1%のインスピレーションと99%の努力である」。

有名な彼の言葉だが、この「インスピレーション」は「霊的啓示」と訳されるべきだ。

エジソンは、人間の魂も宇宙のエネルギーの一部であると考えていた。エネルギーは不変なので、人間が死んで無になるということはあるわけがなく、魂は人間の死後も存在し続ける。

この魂エネルギーが次なる肉体に宿れば「転生」となり、アイデアの提供ならば「インスピレーション」になる。エジソンは、これらの

ウエーデンボルグは、当時、ヨーロッパ有数の科学者だった。彼の学問は、数学・物理学・天文学・宇宙科学・鉱物学・化学・冶金学・解剖学・生理学・地質学など、多岐に渡っている。なかでも、結晶学についてはスウエーデンボルグが開拓した学問であるとされている。

理論的に、飛行可能と思えるような飛行機の設計図を、歴史上はじめて書いたのはスウエーデンボルグであるとも言われている。

知的エネルギーを「リトル・ピープル・イン・マイ・ブレイン（私の脳に住む小人）」と名付けた。これがエジソンが最も重要視した1%の霊的啓示なのだ。

もし、このインスピレーションを機械がキャッチできれば……。そう考えたエジソンは、晩年、霊界通信機の発明に真剣に取り組んでいた。

エジソンは、亡くなる4カ月前にラジオ演説で、こう述べている。

「自分の発明は前世に必要な情報を積み重ねてきた結果であり、来世でも、現世で解明できなかった研究を続けることになる」と。

さらに、最晩年、椅子に腰掛けうつらうつらすると、突然、目をあけてこう言ったという。

「向こうはとっても美しいよ」

最晩年の床で、自らがリトルピープルになって遍満するエネルギーの世界を垣間見ていたのである。

Q

どうやってたらホンモノと言う確証が持てますか？

A

霊言は、その霊でなければ言えないことを言う。たとえば、坂本龍馬霊は自分が最期、どのように暗殺されたかを克明に語った『龍馬降臨』参照)。特に、今生きている人の守護霊を呼び出して話を聞くと、本

人そっくりの話し方、考え方をしている。その本人しか知らない情報や本音を語るところを見れば、これは「本物だ」と分かる。また、それぞれの霊の個性の違いを見れば、とても創作で300人以上の霊言を語れるものではない。

また、「公開霊言」は、幸福の科学の関係者だけではなく、一般人もいる前で、何度も公開霊言をしている。衛星中継を含めると証人は数万人単位でいる。

Q

どうして、こんなスピードで霊言本をだせるのですか？

A

霊言の収録自体は、書籍発刊よりも頻繁に行われている。それらは公開の場で行われ、原稿は一切ない。DVD映像として、拜聴もできるので、ごまかしはない。1回2〜3時間の霊言を、録音から起こしてそのまま1冊の本になる。霊言の場合は、

今現在、世間に公表すべきと判断される内容があるため、緊急発刊として、編集されるのだ。

実際には、かなり抑えているが、霊人は世に知らせたいというメッセージを持って臨んで来る。政治・経済、科学に到るまでテーマはきわめて多様だが、実在の霊が



話しているから、このスピードで出すことが可能なのだ。

Q

ふいつつの霊媒師とは、何が違いますか？

A

巫女や霊媒師の場合、意識がトランス状態(喪失状態)になって、「霊に乗っ取られる」形で言葉を語る。これは、本人の魂に代わって、霊がすっぽり入って話しているからだ。

しかし、大川総裁の場合は、意識ははっきりしたままで、同時通訳をするように霊の言葉を伝えることができる。霊言の内容に何か疑問がある場合には、自分自身で質問して、一人二役

の形で質疑応答ができる。

これは、大川総裁の霊格と霊能力が非常に高く、霊が総裁を支配できず、逆に総裁のほうでコントロールできるといいう、力の差が歴然とあるからだ。

Q

なぜ昔の人の霊が、現代のことを知っているのですか？
また、生前のその人と違うことを言っている人もいます。

A

亡くなってからも、この世に関心を持つ霊はいる。例えば歴史上の偉人。死後、その意識体は天上界に還って生き続ける。愛で生きた魂が、地上に無関心ということはない。さらに霊も成長進化する。生

前と同じ考え方のまま何百年も変わらないほうが珍しい。また、現代の様子を興味深く見て、情報収集する霊もいる。地上人の導き役をすることもあるためだ。逆に、「死んだ時のままで思考が止まっている霊」もいる。連

合艦隊司令長官の山本五十六は、ニューギニアで墜落した時の状態のまま70年近くいて、霊言では、「今、私はジャングルの中にいる」と言っていた。また、マルクスは死後120年以上、無意識状態のままだった。



なぜ外国人の霊が、日本語を話すのでしょうか。

A.

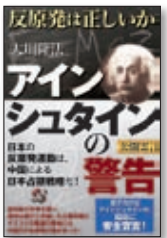
ケネディやナイチンゲールなど、比較的最近亡くなった外国人の霊は、英語で話すこともある。インドの神・ウイシュヌ神は古代インド語で語った。

また、最初は外国語を話しているが、だんだん大川総裁や霊媒（チャネラー）の言語中枢を

通じて日本語を話せるようになる場合もある。さらに、「通訳」

の霊が間に入って、日本語に同時通訳する形で行う霊言もある。

要は肉体ではなく「霊」なので、「念い」を通じて言葉を変換できるわけである。



「守護霊」が、まるで本人であるかのように語っているのは、なぜですか？

A.

構造的に言えば、守護霊と守護されている人間は同じ魂の兄弟なのだ。だから、その意識、記憶は共有される。そういう一体感がまずある。

さらに、守護霊は生きている

人にいつも付き添うようにしている霊なので、ほとんど本人と同じような考え方、行動をしている。本人の潜在意識と言ってもよい。だから、本人そのもの

のような立場で語ることが多い。

守護霊でありながら、自分が守護霊であると分からず、「本人」だと思い込んでいる場合もある（菅直人元首相、胡錦濤中国国家主席など）。つまり、本人とほとんど一体化している。

Q. 「霊言」は今後も続くの？

まだまだ

進化する「霊言」は、

現在進行形で、どこまで行くのか？

大川隆法総裁による「霊言」は、実は幸福の科学の創立以前から始まっている。

総裁がまだ24歳だった1981年3月23日、自動書記で「イイシラセ」ということが送られてきて以降、「霊界通信」が始まった。その後、イエス・キリスト、仏陀、モーセといった大霊たちが次々と

「霊言」を語り、総裁の父・善川三朗名誉顧問が質問者となって対話し、それを書籍としてまとめたのが、初期の霊言集である。

『日蓮聖人の霊言』（1985年発行）を皮切りに、『キリストの霊言』『空海の霊言』『坂本龍馬の霊言』など、次から次へと刊行され、「霊言ブーム」を巻き起こした（この時



期の霊言は『大川隆法霊言全集』50巻・別巻5巻として会内頒布されている。

その後、1994年に幸福の科学は「三宝^{さんぼう}依体^{いたい}制」を確立し、仏陀意識を中心に教義を固めたため、しばらく「霊言集」としての発行はない期間が続いた。

第二次霊言ブーム

そして、2009年。民主党政権が誕生し日本が国難に見舞われるとの観測から「幸福実現党」が立党され、天上界の諸霊が活発に活動を開始したのに合わせ、再び「霊言」の時代が到来した。

坂本龍馬、勝海舟、西郷隆盛、吉田松陰など明治維新の志士たちをはじめ、現代に近い田中角栄、



佐藤栄作、岸信介などの政治家、ドラッカーや松下幸之助などの経営の神様、さらには卑弥呼や光明皇后などの女性の偉人たち――。

二度目の霊言ブームの特徴は、「公開霊言」として多くの聴衆の前で行われていることだ。毎回の霊言の様子は映像となつて、幸福の科学の精舎や支部で公開されている。

始まった 新たな挑戦 「宇宙人リーディング」

現在進行形で、まだまだ進化し続ける「霊言」。2010年からは「宇宙人リーディング」という全く新たな分野に総裁は挑戦している。これは、現在地球人として生きている人の潜在意識の奥底に眠って

いる「宇宙人だった時の意識」を呼び出して霊言させるといふ、超絶した霊能力だ。この「宇宙人シリーズ」もすでに数十冊発刊されている。

一体、大川隆法総裁の霊能力は、どこまで広がっていくのか。おそらくこの宇宙のすべてを見通し、その奥にある霊的宇宙にまで広がっていくのだろう。謎はまだまだ深

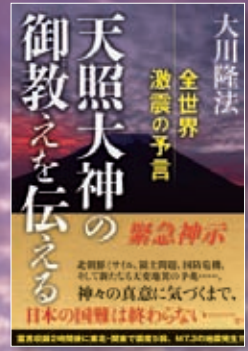
まるばかりだ。

人類がこれまで目にしたことのない「霊言」の世界。これを読まずして、見ずして、これからの時代を語ることはできない。あなたもぜひ、書店で「霊言」を手にし、そして実際の映像も観ていただきたい。そこから、あなたにとっての新しい未来が始まるだろう。



全世界激震の予言 天照大神の御教えを伝える

全日本人必読!



北朝鮮ミサイル、領土問題、国防危機、そして新たな天変地異の予兆……。神々の真意に気づくまで、日本の国難は終わらない。信仰を失い、国家を見失った現代人に、日本の主宰神から新たな警告が語られた。

1,470円(税込)

衆院選翌日の12月17日。
安倍晋三氏の守護霊インタビューを敢行!

選挙総括から公約実行の本気度まで。尖閣問題、沖縄米軍基地、日米同盟、集団的自衛権、原発の問題、憲法改正、景気回復、消費税、TPP問題、混乱する日本政治の行方を占う!

1,470円(税込) 発行/幸福実現党

安倍新総理 スピリチュアル・インタビュー 復活総理の勇気と覚悟を問う